おおさか労連

号外〈部内資料〉
2015年11月1日

発行所　全大阪労働組合総連合
発行人／川辺　和宏
編集人／竹内はるな

一部10円　組合員の購読料は組合費に含まれています
1993年６月22日第三種郵便物認可

大阪労連のホームページ　http://www.osaka-rouren.gr.jp　E-mail：info@osaka-rouren.gr.jp

全大阪労働組合総連合機関紙　〒530－0034　大阪市北区錦町２－２　国労会館１Ｆ　☎06－6353－6421

大阪府知事＆大阪市長

11月22日㊐

ダブル選挙特集号

「オール大阪」の共同で経済・くらし破壊の政治を終わらせよう

大阪労連が自主支援する

大阪市長選挙
柳本あきら氏

略歴

大阪市西成区生まれ。41歳。大阪教育大学付属高校卒、京都大学法学部卒、関西電力勤務、大阪市議５期。自民党大阪市議団幹事長など歴任。

大阪府知事選挙
くりはら貴子氏

略歴

豊中市生まれ。53歳。大阪府立北野高校卒、大阪大学経済学部卒、公認会計士、豊中市議１期、現在大阪府議２期（自民党府議団政調会長）。

住民投票勝利に向け決起した大阪メーデー

府民の声で動く まともな政治へ

「ダブル選挙」での「自主的支援」を決定

大阪労連は、橋下維新の府市政の7年余、その「独裁政治」を許さずたたかってきました。今回の「ダブル選挙」について、これまでのたたかいの経験と意義をふまえ、明るい民主大阪府政をつくる会・大阪市をよくする会に結集し、「橋下維新政治を終わらせるために、自主的に、府知事選は『くりはら貴子』氏・大阪市長選は『柳本あきら』氏の当選のために奮闘する」ことを第2回幹事会で決定しました。組織の総力を挙げて、府下各地で共同のたたかいを広げ『維新政治を終わらせよう』とよびかけています。

大阪労連としての「ダブル選挙」の位置づけ

この「ダブル選挙」は、①憲法と民主主義を破壊する橋下維新政治に終止符を打ち、②まともな自治体としての大阪を取り戻し、③労働者と住民への権利侵害をやめさせると共に、④安倍政権との「改憲タッグ」を断ち切るたたかいです。また、住民共同の力で勝利することは、安倍暴走政治にストップをかけ、日本の民主主義を守るたたかいに直結するたたかいでもあります。

この7年あまりをふりかえって

橋下維新の会によるこの7年余の府市政は、くらし・福祉施策はバッサリ削減、「なんでも民営化」で公立施設の一方的な統廃合を強行、「公募」区長や校長では問題が続出しています。そして「選挙に勝てばなんでもできる」とばかりに、独裁的手法で「対立」と「混乱」が生み出されてきました。

いま、大阪の経済・くらし・労働の実態は、どの指標をみても全国平均に遠く及ばない状況となっています。これらに対して、さまざまな分野・地域で橋下維新政治に反対し、住民の切実な声にもとづく政治への転換を求める共同の運動が広がっています。

大阪労連は「独裁政治」を許さない

労働者・労働組合に対しては、組合事務所の一方的な撤去通告や思想調査アンケートをはじめとした様々な権利侵害・不当労働行為を重ね、そのほとんどが大阪地裁や大阪府労働委員会で断罪されました。最高裁での争いとなっている組合事務所強制撤去については、もはや大阪だけの問題ではないと、全労連としてのたたかいに広がっています。

「大阪都構想」が5月の住民投票で否決された

勝利のために全力で奮闘する

しかし橋下維新の会は、この「ダブル選挙」で、否決された「大阪都構想」を再び持ち出し、ことは、まさにこの間のくらし破壊や住民無視の独裁的手法を許さないという、大阪市民の良識と共同の広がりによるものです。それは同時に、橋下維新政治ではない、住民の声に基づく新しい政治により、大阪をよりよく変えて行きたいという有権者の意思表示でもあります。この声を生かしていくことが必要です。

さらに「過去に戻すか、前に進めるか」と、またもやウソとペテンで「起死回生」をたくらんでいます。

求められていることは、もちろん過去に戻すことではありません。前に進めるため「橋下維新政治を終わらせ」て、住民の声に耳を傾けるあたりまえの政治に転換していくことです。

大阪労連は、職場のすべての労働者との対話をすすめよう、地域に出て旺盛に訴えよう、投票日には必ず投票に行こう、と、自主的に勝利のために奮闘することをよびかけています。

必ず投票に行きましょう